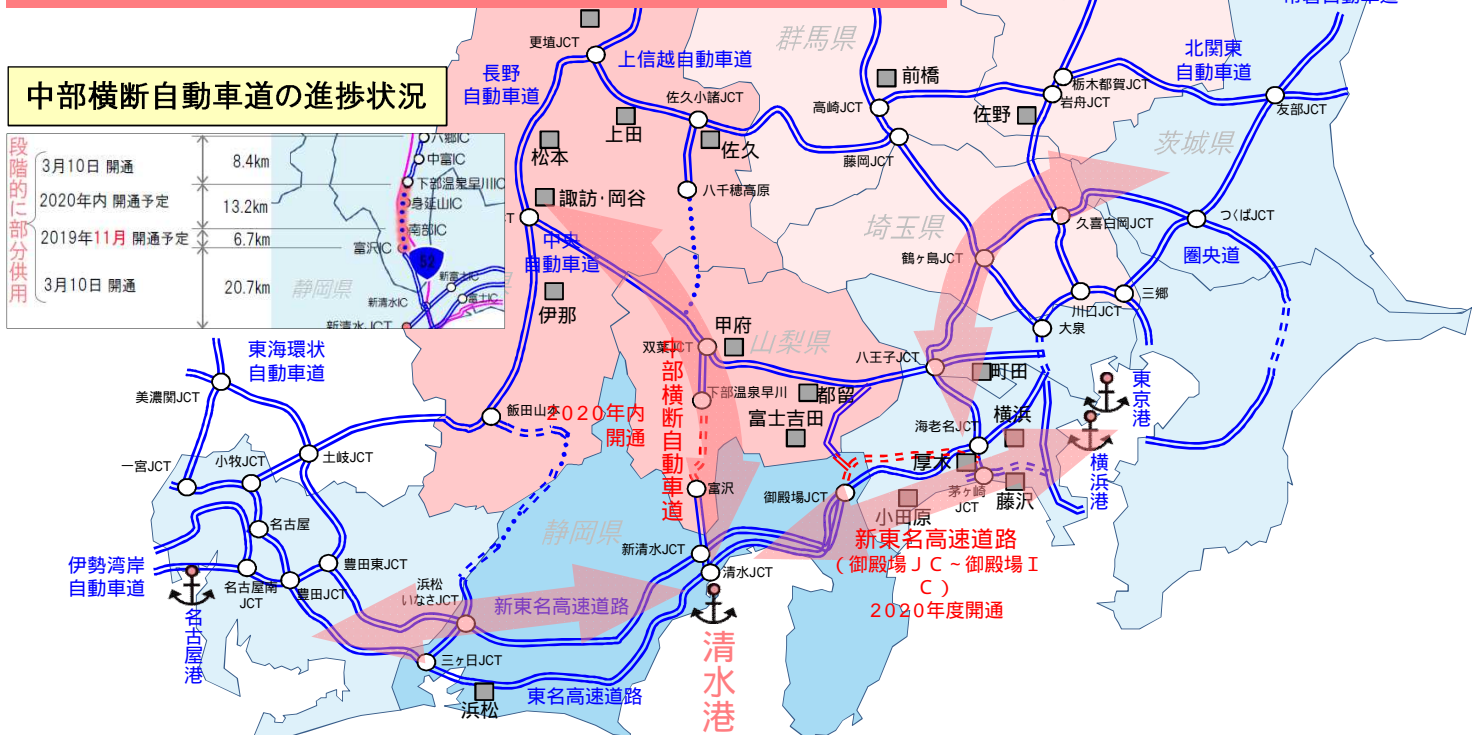


山梨県及び長野県と連携した ポートマーケティング活動 ～清水港における集荷の取組～

令和元年9月4日
交通基盤部 港湾局

周辺交通ネットワークの充実

- 東名・新東名のダブルウェイ
- 中部横断自動車道が全線開通
- 圏央道の開通で北関東とのアクセス向上



甲府-東京港 VS 甲府-清水港

中部横断自動車道開通後

・距離と所要時間を比較

・往復で、距離**100km**、時間**2時間**短縮可能

甲府市発	距離	往復の輸送時間	CY通過時間	合計所要時間
清水港	(片道90km) 往復180km	(中部横断自動車道経由) 約1時間30分 × 2 = 3時間 ¹	12分 ³	3時間12分
東京港	(片道140km) 往復280km	(中央自動車道経由) 約2時間00分 × 2 = 4時間 ²	82分 ⁴	5時間22分
差	(片道50km) 往復100km	約 1時間	約 1時間	約 2時間

1: 甲府市役所から新興津コンテナターミナルまで。中部横断自動車道開通後(現況と比較し30分短縮)を想定。

2: 甲府市役所から東京港大井ふ頭まで。

3: コンテナターミナル到着からゲートアウトまでの平均時間(鈴与(株)コンテナターミナル部調査結果から算出)

4: 一般財団法人東京都トラック協会の調査(平成30年12月)結果から算出

山梨県でのポートマーケティング活動

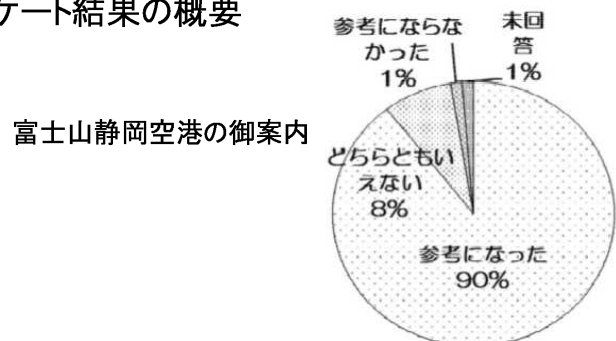
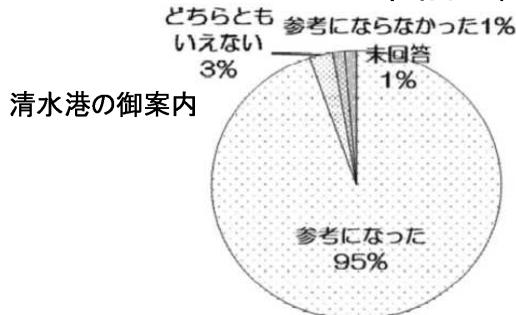
名称	R元開催時期 (H30開催実績)	会場	R元参加者数 (H30参加者数)
清水港/富士山静岡 空港セミナー	令和元年7月26日 (平成30年7月27日)	甲府市	394人 (329人)

セミナー

情報交換会



令和元年度アンケート結果の概要



長野県でのポートマーケティング活動

名称	開催時期	会場	参加者数等
清水港 利活用説明会	平成31年3月15日 令和2年3月中旬予定	上田市 佐久市	84人 (荷主17社、物流・船社14社、行政関係)
清水港視察会	令和元年8月22日	清水港	11人 (荷主、農産品荷主、物流)

利活用説明会

視察会



○参加者の意見・感想

- ・BCP(事業継続計画)の観点で参考になった。
- ・モーダルシフトのコスト比較をしてみたい。
- ・助成制度についてさらに知りたい。
- ・視察会への参加を希望する。

○参加者の意見・感想

- ・普段見ることのない燻蒸施設、梱包工場等を見ることができ参考になった。
- ・コンテナターミナルでの所要時間が京浜港などと比較して非常に短く、時間ロスが少ないことは魅力的。物流コストを比較して、清水港利用を検討したい。

清水港への利用転換

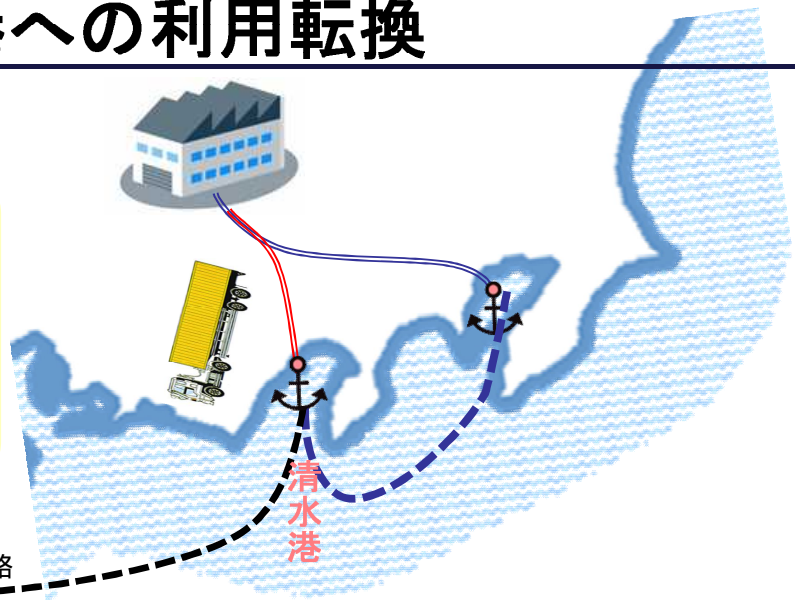
主な転換例

メーカーS社 (食品系)

- ✓ 2016年～
- ✓ 京浜港からの輸出を清水港利用に切替え
- ✓ 切替えの理由は航路と運賃



東南アジア航路



○新規又は県外港から清水港に切替えた輸出入コンテナ貨物助成の推移

区分	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
実績A	170件 (6,608TEU)	120件 (3,802TEU)	161件 (5,703TEU)	143件 (7,155TEU)	133件 (5,196TEU)
うち 山梨県・長野県B	6件 (172TEU)	5件 (242TEU)	8件 (740TEU)	26件 (729TEU)	24件 (907TEU)
構成比 (B/A)	3.5% (2.6%)	4.2% (6.4%)	5.0% (13.0%)	18.2% (10.2%)	18.0% (17.5%)

⇒ 5年で
4倍に

* TEU : 20フィートで換算したコンテナ個数を表す単位

農水産物輸出促進計画の取組

○農水産品輸出環境の強化

清水港新興津地区において

○農水産物の輸出需要に対応するためリーファーコンテナ電源供給設備を増設（事業主体の民間を支援、国庫活用：事業費87,000千円 H30.8月整備完了）



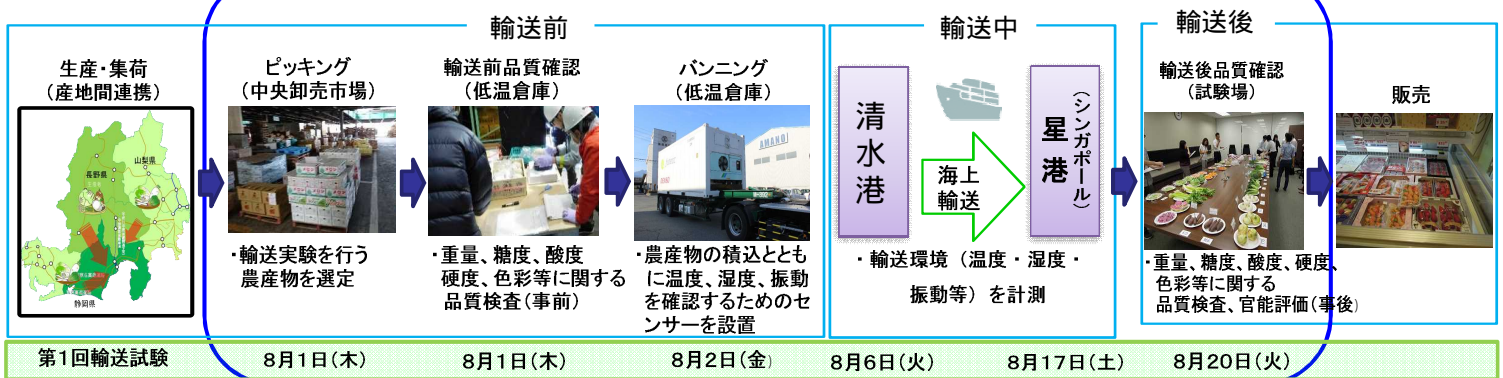
○物流用地の造成（NEXCOとの連携事業）により

民間による物流施設用地への「新興津国際物流センター」建設・供用を支援（令和元年12月末整備完了予定）



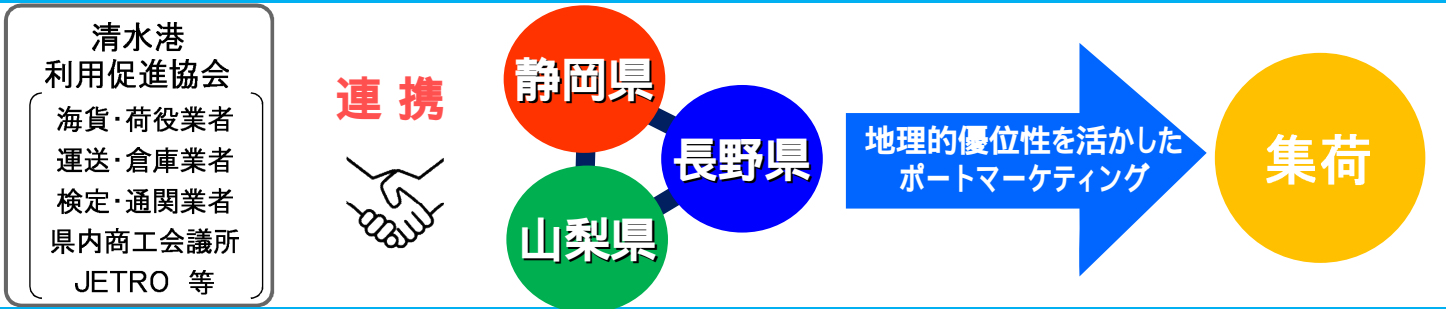
○高規格冷蔵コンテナを用いた農産物海上輸送試験

農産物輸送試験（4回実施予定）



今後の展開

○地理的優位性を活かした官民連携によるポートマーケティング



○「スマートガーデン ポート清水」の実現

港湾管理者である県が主体となり「スマートガーデン ポート清水」の実現に取り組む

